

(様式第3号)

学 位 論 文 要 旨

氏名: 佐藤 菜穂子

題目: 途上国の家計食料消費に関するマイクロ計量経済分析
(Microeconometric Analysis of Household Food Consumption in
Developing Countries)

本研究では、世界銀行やRANDなどの研究機関が実施した大規模個票データを使用し、インドネシア、東ティモール、南アフリカ、バングラデシュを事例に世帯レベルの食料摂取状況を規定する要因について定量的に解明した。

第3章では、IFPRIが1993年に南アフリカのKwazulu-Natal州において実施した調査の個票データを使用し、分位点回帰分析を適用して家畜飼養頭数が世帯レベルの食料摂取状況に与える影響について定量的に解明した。

その結果、家畜飼養頭数が多い世帯ほど、世帯レベルの食料摂取状況は向上し、とりわけ貧困層においてその影響が大きいことが明らかとなった。

つづいて第4章では、東ティモール都市部を事例に社会経済脆弱地域における世帯レベルの食料摂取状況について検討を行なった。本章では、世界銀行がインドネシアからの独立まもない東ティモールで2001年に実施した大規模個票データを使用し、分位点回帰分析を適用して計測を行なった。

定量分析によって、暴動などによる家庭内の人口増加や暴動によって家屋被害を受けた世帯では、食料摂取状況が低下する傾向にあることが確認された。そして、非農業部門の就業者有無や世帯主の教育水準、家畜飼養やソーシャル・キャピタルは世帯レベルの食料摂取状況にプラスの影響を与えることが確認された。

第5章では途上国で生活水準が著しく低下する雨季の食料摂取状況に着目し、雨季における食料困窮度を規定する要因について検討を行なった。バングラデシュと東ティモールの都市部を事例に雨季における食料困窮回数を従属変数に使用し、切断型ポアソン回帰分析を適用して計測を行なった。計測結果より、概して非農業部門に就業者がいる、世帯主の教育水準が高い、ソーシャル・キャピタルの水準が高い世帯ほど、雨季における食料摂取状況は良好であり、経済ショックを受けた世帯ほど雨季の食料摂取状況は不調であることが確認された。

第6章では、インドネシアを事例に鳥インフルエンザが家禽類飼養世帯の家計支出額に与える影響について、一般最小二乗法を適用して計測を行なった。その結果、農村に居住する家禽類飼養世帯は鳥インフルエンザの影響を受けた世帯ほど、家計支出額が低下する傾向を示した。しかし、都市部に居住する家禽類飼養世帯の家計支出額と鳥イン

フルエンザの有無の間には明瞭な関連性が見受けられなかった。

そして第7章では、東ティモールを事例に、主観的食料充足度と主観的ヘルスケア充足度を規定する要因について2変量プロビットモデルを適用して定量的に解明した。計測を行なった結果、被扶養者数の比率が低い、都市・都市近郊部に居住する、食料・農水産業に関する支援を受けた、非農水産業に関する支援を受けた、世帯主の教育水準が高い、ソーシャル・キャピタルの水準が高い、家畜飼養を行なっている世帯ほど、主観的食料充足度が高い傾向にあることが明らかとなった。

本稿における計測結果を踏まえると、途上国における世帯レベルの食料摂取状況改善を図る際にどのような施策が効果的であろうか。

長期的な視点に立った時には、教育水準の向上や非農業部門の雇用拡大を図ることが世帯レベルの食料摂取状況向上に効果的であると推察される。しかしながら、短期的な視点に立った時には、ソーシャル・キャピタルの水準向上や自家消費可能な家畜飼養の促進が効果的であろう。具体的には、ソーシャル・キャピタルの水準向上を図る際には、コミュニティーグループへの参加促進などが挙げられる。そして、家畜飼養促進では、飼育方法が比較的容易な家禽類等の配布が有効であろう。